

各区幹事の皆様

謹啓

皆様におかれましては日頃、ジュニア育成にご尽力をいただき大変感謝申し上げます。また、昨今の「コロナウイルス」によって各行事が軒並み自粛という厳しい現実の中、お知恵を出しながら苦慮され、クラブ運営をされているかとも拝察いたします。

まことにご苦労様です。

さて、ここ数年のジュニア育成もミニから U-12 へと着実に変化をしてみりました。

かねてから当連盟においても「バスケかミニバスケか」のアンケートを実施してきたところです。この件においては賛否両論いただきましたが、年々賛同いただける区も増えてきたと同時に、ご興味を示してくださる方々も増えてまいりました。

ジュニア育成において、F I B A のルールがすべて正解だとは思いませんが、高学年が中心となり集うトーマスカップにおいて、ここ数年「ミニバス」のルールでプレイをする選手達を見ていて、非常に違和感を覚えるようになりました。この議論は何年話しても尽きず、すべての方々からの賛同は得られないとも思っております。しかしながら、スポンサー様の賛同をいただきチャレンジできる大会は、唯一このトーマスカップではないでしょうか。練習等環境面でのご苦労はあるかとは存じますが、今 2020 年末のトーマスカップを「ミニバスルール」の最後の年として、来る 2021 年の大会からは全てが F I B A のルール通り進めさせていただきたいと思っております。

オリンピックイヤーの 2020 年、バスケットボールのルールがどのように変わるかは定かではございませんが、U-12 に関わる皆様が、この移行期間になる 2 年弱をチャレンジの年と位置づけ、また指導から勝利至上を切り離し、U-13 へスムーズにバトンを渡せる環境の構築にご尽力いただくとともに、フレキシブルな考え方をもち指導に当たっていただければ幸いです。「昨日までやってきたことが間違っていたなら、今日から即変えれば良い、今日が違っていたら、明日また変えれば良い！」日々変化する指導方法を我々が敏感に反応することが、子供たちの育成に不可欠と感じます。

最後になりますが、日頃の皆様のご努力が、現在のバスケットボール界の力になっていることは揺るぎもない事実です。さらなる高みを目指し、ジュニア育成に引き続きのご指導をよろしく願いいたします。

敬具

令和 2 年 3 月 2 0 日

東京都区部ミニバスケットボール連盟
会 長 前田 武士
理事長 長縄 義孝